



No.71 2001.6

発行 京都府立医科大学

〒602-8566 京都市上京区河原町通

丸太町上ル梶井町465

TEL 075-251-5210 FAX 075-211-7093

病院長就任あいさつ

附属病院の新たな発展に向けて

附属病院長 中川 雅 夫

本年4月から附属病院長に就任いたしました。前回病院長を務めた6年前と比較して、医学・医療を取り巻く環境や財政状況は依然として厳しい状態にあることに変わりはありませんが、社会の情報化の進行とともに、あらゆる分野で組織改革が進められており、本学の教職員の意識も徐々に変化してきているように思います。我々の附属病院関連の懸案事項については、皆様方のご理解とご協力のもとに、その解決と病院機能の活性化に向けて努力するつもりであります。よろしくお願いたします。

一昨年にスタートした内科及び外科の診療ディビジョン化の動きは病棟再編、中央部門の整備へと進んでおります。また、附属病院総合電算化システムについては、来年度のオーダリングシステム全面稼働に向けて、入院部門、外来部門とも最終調整を進めております。

学生の臨床教育もすでに診療ディビジョンの流れを受けて新しいカリキュラムのもとに進められており、学外研修も始まって

おります。一方、卒後研修についても、3年後に予定されている研修の必修化にむけて、今年度の研修医からローテーションを実施する研修カリキュラムの検討が進められています。これらのスケジュールの流れは、全てが附属病院の総合電算化、組織再編と連動するものであり、総合診療科、救急医療部、その他の中央部門を含めて病院全体の診療体系の見直しが求められており、効率的な診療体系の確立を急がなければなりません。

このように、経営改善を含めて、診療体系の見直し、診療内容の質の向上、病床の効率的な運用、関係病院との連携など、多くの問題を抱えており、本学附属病院がその持てる機能を十分に発揮するためには、新しい管理運営体制の構築が必須の課題と考えております。これら諸問題の短期間で解決は大変難しいと思われませんが、着実に進めていきたいと考えています。同時に、構造的にも機能的にも不都合な部分が多い現在の外来診療棟をできるだけ早急に建て



直す必要があり、その早期実現に向けて努力したいと考えています。

新しい21世紀における医療のキーワードは、透明性 (translucency) と説明責任 (accountability) といわれており、今後の教育研修の最重点課題は危機管理 (risk management) にあるとされています。特定機能病院としての更なる発展に向けて努力したいと思っておりますので、皆様方のご協力とご支援をお願いいたします。

目 次

1 病院長就任あいさつ	1	4 学内ニュース	
2 管理職就任あいさつ	2-3	・基礎医学学舎実習棟完成	6-7
3 教授停年退職を迎えて		・老化研10周年記念講演会	8
・整形外科学教室教授	4	・卒業式・入学式	9
・皮膚科学教室教授	4	・平成13年度予算概要	10
・衛生学教室教授	5	5 特 集	
・歯科教授	5	・新人ナースのみなさんへ	11-12

管理職就任あいさつ

医療センター所長就任にあたって



精神医学教室教授 福居 顕二

4月1日付けで医療センター所長を拝命いたしました。

本学の医療センターのシステムについてはご存じの方も多いと思います。センターを構成する機関として、府立与謝の海病院・洛東病院・京都府下の12地方振興局健康福祉部(保健所)・障害者保健福祉課(舞鶴こども療育センター・心身障害者福祉セン

ター)・精神保健福祉総合センター・健康対策課・地域福祉・援護課と、知事公室職員課があり、所属職員は全部で約90名近くになります。本学のこのセンターは、地域医療に深く関わり、高度な医療技術を府民の健康確保のために活用し、併せて医学の発展に資することを目的に、昭和46年6月に設置されました。

センターの職員の本務は府の保健福祉部と知事公室ですが、同時に各教室の併任の教員でもあります。大学から遠方の機関もありますが、センターに属する先生方はそれぞれの母教室とよく連携をとられ、研究費の獲得にもチャレンジし、一層の診療・研究・行政での実が上っていくことをお願いしたいと思います。また、機関によっては、研修医の教育や本学の外来診療等についても関わっていただいております。併せてよろしくお願い致します。

保健所については、昨年、保健所間の所長異動がありましたし、木下前医療センター所長のもとで、全学的に対応している保健所への教員の派遣について学内公募がうまくスタートし、併せて新規に5教室が保

健所長派遣順位に加わりました。本年度は、医療センターを通じて行っている公衆衛生事業研究の見直しが決まっており、テーマも、従来の公衆衛生に関するものから、広く地域の医療・保健・福祉・環境衛生の課題解決に役立つテーマとされています。

今年は、ちょうど医療センターが開設されて30年を迎える節目の年でもあります。本学はもとより、医療センターの更なる充実に向けて、センター職員の皆様をはじめ、学内外の方々の御意見をお聞きしながら、微力ながらその運営を進めていければと願っております。新京都市総合計画の基本計画の一つである、「明るく健やかな健康福祉社会の確立」で謳われているように、保健・医療・福祉の充実やこれらの密接な連携の必要性が不可欠であることは周知のとおりであります。全国に先駆けてスタートした、本学の素晴らしい医療センターシステムの発展を祈りつつ、大学・京都府の関係各位の御協力・御支援をよろしくお願い申し上げます。

学生部長再任にあたって



第二病理学教室教授 高松 哲郎

この四月から2年間学生部長に再任されました。ご挨拶申し上げます。

現在、本学も日本の他大学と同様変革の嵐の中にいます。たとえば私が属している主な委員会を挙げますと、大学入学試験委員会、教育委員会、小児疾患研究施設運営委員会、自己点検・評価委員会、臨床教授等選考委員会、高度情報化委員会、医療技

術短期大学部四年制化準備特別委員会、内科学教室ディビジョン化検討委員会、外科学教室ディビジョン化検討委員会、京都府立医科大学附属病院経営改善推進委員会、京都府立医科大学のあり方検討委員会、京都府立医科大学附属病院外来診療棟整備検討委員会となり、名前からも本学の置かれた立場が垣間見えてくると思います。なかでも、大学入学試験委員会と教育委員会は学部学生の入学から卒業までをカバーする基幹委員会ですが、両委員会のシステムが本年度から大きく変わりました。

大学入学試験委員会は、これまで入学試験を行う実行部隊としての性格が強く、入試成績の開示や選抜システムの改編など基本的な課題の検討に相応しいところではありませんでした。そこで、医療技術短期大学部四年制化に合わせて、この委員会の役割を入学試験全体の統括と医学部全体として行うセンター試験の担当に変え、両学科の入学選抜試験を実行する入学者選抜委員会と基本的な制度の検討を行う入試制度検討委員会を入学試験委員会の下に設置しました。この制度をうまく船出させることが

今年のテーマとなります。

教育委員会の今年度のテーマはなんと言っても文部科学省が提示しているコア・カリキュラム(詳細はhttp://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/index.htmをみてください)でしょう。これをもとにした臨床実習前の共用試験が、平成14年から一部の大学で試行され、その後全国の希望する大学で行われる予定です。早急に本学の立場を明らかにしなければなりません。また、教育委員会の下に教養教育、基礎・社会医学教育、臨床医学教育をそれぞれ担当する専門委員会を設置しました。教養教育では看護学科との連携が、基礎・社会医学教育では大学院重点化が実施された時の学部教育が、臨床医学教育では既にスタートした新しい臨床実習の推進と卒業試験のあり方がそれぞれ主題になります。

新しくできる入学者選抜委員会や教育委員会の専門委員会は、助教授の方たちが入ることによって大学運営に対する意見を幅広く汲み取れるようになり、改革の大きな支えになってくれると思います。本年も変わらずご支援をお願い申し上げます。

教養教育部長就任にあたって 教養のない人間は常識の無い人間



生物学教室教授 佐野 護

この度、教養教育部長に任命されました。よろしくお願いたします。私は専ら神経細胞学と言うような狭い領域の研究にだけ従事しておりましたが、2年ばかり前から、本大学で、生物学の初歩の教師をさせていただいております。サブタイトルの「教養の無い人間は常識の無い人間」とは、立花隆が最近の対談の中で述べていた言葉で、私には耳の痛い、自戒を感じさせる言葉で

ありますが、教養教育を再認識する最近のながれのポイントではないかと思われます。人間とはどのような存在なのか、宇宙とはどういうものなのか、どのように我々の世界は構成されているのか、その全体像の把握が教養であり、必ずしも専門の職業に役立つものばかりではなく、一種の常識なのでしょう。府立医科大学では、他の大学が教養教育を大幅に縮小する中で、はっきりとした形の教養教育課程を堅持しています。また比較的必須の科目が多く、自由な選択の余地が少なく感じられますが、これは、単科の大学の苦しい事情もあります。教養というのは、自主的に本人の好みによって、学ぶべきであるという観点も当然ありますが、私なんかは、若いころから、自由にされると、かなり専門分野に片寄った本しか読みませんでした。しかし、単位を取るために他の学問分野を知り、興味を感じて、自主的に関連した本を読むきっかけにもなったように思われます。

この大学へ入学する諸君は、レベルの高いアビリティの持ち主ばかりですが、医師免許を取る以外のことには、出来るだけエネルギーを使わないように徹していると思われるような諸君も若干存在します。自

分が患者になった時、どういう同級生に見てもらいたいのか、とたずねると、そういう諸君は、当然同級生からも「ノー!!」でしょう。臨床医療にたずさわると、大変我慢強い努力と、緻密な総合判断力が要求されるのが当然で、そういう姿勢を日常感じられないと信頼を失うのでしょう。

語学力、情報収集力、論述する能力などを高め、また他のいろいろな能力の持ち主と刺激しあい、専門分野に向かっの基礎力を磨くと同時にレベルの高い常識を供えた医師になってもらいたいと思います。教養教育の課程が、社会から信頼される医師の養成されるスタートの場として、意義あるものであるよう努力していきたいと考えております。日常の教育ばかりでなく、教養教育棟の移転問題、看護学科教養との合体の問題、大学院重点化など、懸案事項が多々あります。いずれの課題も、大学、特に学生にとって良い方向に進むよう努力したいと考えます。この重責は、とても誰か1人で全う出来るものではないことは明らかです。諸先生、事務関係の方々のご支援、ご協力を切望する次第です。

附属図書館長就任にあたって 附属図書館を通じて求めるもの



小児疾患研究施設
外科第一部門教授 岩井 直躬

昨年の12月1日付で附属図書館長に就任いたしました。それまでは図書館の一利用者という立場で図書館をみていましたが、今回からは図書館を皆様いかに利用していただけるかを考える立場で図書館をみる機会に恵まれました。微力ではありますが、全力を尽くすつもりですので何卒宜しくお願い申し上げます。

本学附属図書館の特徴は、一般の図書館と異なり、主に医学という専門領域の情報サービスを提供するという点です。また、利用者に関しては、本学の学生、本学で研究・教育に携わっている方、附属病院および学外医療関係の方が中心であります。この特徴を生かすべく、本学附属図書館の目的は明らかです。すなわち、『世界トップレベルの医学を京都府民の医療へ』を目指す本学の理念を实践するにあたり、その拠り所となる正しい情報を皆様提供することです。

ところで、医学、とくに生命科学分野での進歩のテンポは極めて速く、その情報量

も増加する一方です。また、一般社会での『IT革命』という表現は一時より元気がなくなったとはいえ、それに呼応して図書館の情報提供の方法、利用の方法もコンピュータシステムの導入により従来の方法から変わってきています。すなわち、医学・医療に関する情報量の増大およびそれらの情報の収集・処理の方法が、かつての図書館で要求されたものとは大きく変化しています。

本学附属図書館を通じて求めて頂きたいのは、あくまで『世界トップレベルの医学を京都府民へ』を目指して、一歩でも着実にその成果を積み上げることです。それに到達する一つの方法として、正しい医学・医療の情報活用があります。そのために、本学附属図書館が限られた予算の中でそれらを可能なかぎり取り揃えているのです。これからも本学附属図書館が、より多くの人々にそしてより広い範囲にわたって利用されることを切に願っています。

教授停年退職を迎えて

退官にあたって



整形外科学教室教授 平澤 泰介

あつという間に停年になってしまいました。停年を機会にゆっくり故郷の土を踏んで、自然を味わってみたいと思っています。私の故郷は北上川のほとり、早池峰山のふもとで、夜空は銀河鉄道が見えるような美しい、子供の頃からメルヘンの世界と信じていたところです。

子供の頃を振り返ってみますと、終戦の前に特攻隊の兵隊さん達が家に泊っていました。やさしい兄貴分のような人達で、毎夜家に帰ってくるとトランプをして遊んでくれました。彼らは終戦の1週間前に“文句を言わずに死のうじゃないか”という遺書を残して、太平洋に飛んで帰らぬ人となってしまいました。そして終戦後間もなくアメリカの進駐軍の兵隊さん達が訪ねて来るようになりました。父親が外科医で外国語をたしなんでいたために親しみやすかったのでしょうか。母親の夕食を楽しみに、決まって毎土曜の夜に沢山の兵隊さん達が遊びに来て、私にはジミーという名前をつけて、“You are my sunshine”など沢山の歌を教えてくださいました。子供心に特攻隊も進駐軍も全く同じでやさしい“お兄さん”達でした。当時父は私にドイツ語を教え、兵隊さん達には英語を教わり、一風変わった少年に育ってしまいました。京都の医大を卒業して、カリフォルニア大学、ハーバード大学そしてドイツの大学へと進んでいく大きな原動力になったようです。

ドイツの大学で客員教授として毎日手術に明け暮れていたときに、一通の手紙が故郷から届きました。それは私が中2の時、父親が急逝してしまったあと私の保証人として大学進学などの面倒をみて下さった佐藤隆房先生からの手紙でした。先生は“雨ニモ負ケズ”で有名な宮沢賢治の主治医で、賢治が結核で亡くなるときに“S博士へ”と題して感動的な終焉の詩を寄せた先生です。当時92歳でしたが、その先生が私への手紙に“出来秋は雨か嵐かしれねども今日一日の田の草を取る(百姓歌)-- 栄達を夢見て勉強しないよう、ただ一心に励むがよろしいと存じます”と綴ってあった。それ以来、学問を追求する学徒としていつも謙虚な心で臨床に励むように肝に銘じてきました。果して“S博士”の教え通りにやって来たかどうか一抹の不安はありますが、無事この日を迎えられたことをうれしく思いますとともに、皆様の御協力に心から感謝をしてペンを置きます。

停年退職を迎えて



皮膚科学教室教授 安野 洋一

入学した時期から通算すると45年間、実に長い間府立医大に関わりをもち、また、お世話になった大学で停年を迎えることができたことを大変幸せに思っています。いま、振り返ってみて、出発点でこのような道をたどることになることは予想もしていませんでした。人生の中で人はどちらの方向に進むべきかを慎重に考えなければならない分岐点が何度か訪れるものと思わ

れますが、私の場合、一度目は入局1年後に皮膚泌尿器科学教室から泌尿器科が分離独立することになって、どちらを選択するかで大いに悩んだことであり、二度目は入局10年後に、このまま教室に残って研究を続けるかあるいは故郷に帰って開業するか迷ったことでありました。その後は、ほとんど流れに逆らうことなく流されて、ふと気づくと停年という名の港に到着していたというのが実感です。

はからずも昭和60年に皮膚科学教室の第7代教授を拝命した際に、自分にとって教室とはいったい何なんだろうという思いを強くもったことを憶えています。その頃、雑誌の依頼で「教室は仮の住まいか」という文章を寄稿したことがあります。自分も含めてすべての教室員が長い教室の歴史にとってたとえ小さな足跡であっても後に引き継がれるべきものを遺していかなければならないものと考えました。したがって、人事などで難問に遭遇したときには教室にとって一番良いのはどれかと考えることで解決してきました。

教授就任後のはじめの5年間は教室員の数が足りないことで苦勞し、まずは診療に

重点を置くことでスタートしましたが、その後の2年間に15名の入局者を得て、ようやく研究面の充実、関係病院への派遣など教室運営が軌道に乗ったように思われます。最後の2年間は教室を助教授以下の教室員に安心して任せられる状態になっていたので、何か大学あるいは病院のためにできることはないかと考えていましたところ、幸か不幸か病院長に推挙され、2年間務めさせていただきましました。病院の経営改善、医療事故防止対策、内科・外科のディビジョン制、形成外科・救急部の設置などに取り組んでまいりましたが、特に救急部については運営方法など不十分なままであり、全診療科の方々のバックアップを切にお願いする次第です。

退職の時期にあたり来し方を振り返ってみて、自己の研究業績、教室運営、病院運営のいずれにおいても不十分であったといわざるを得ませんが、幸いにも恩師、先輩そして教室員に恵まれ、最後には多くの病院職員のサポートをいただいで、自分の力量を越えたものにしていただいに心からお礼を申し上げたいと思います。

停年退職を迎えて



衛生学教室教授 阿部 達生

大学を去るとき、「いまだ覚めず池塘春草の夢。階前の梧葉すでに秋声」というような感慨にひたるのは私だけでしょうか。入学してから既に45年、教職について35年余を経過したという歳月にいまさら驚いています。最終講義を京府医大誌に載せていただけというので、1月の終わり頃、80枚くらいの原稿をいっきに書きましたが、思い出せばきりがなく、200枚にでも300枚にでもなると思った次第です。搖籃期から医科学といえるにふさわしい領域が形成された20世紀後半のすばらしい時代に、医師として研究者として人生の大半を本学で過ごして来られたからだと思います。健康に恵まれ、多くの先輩諸兄の暖かいご指導を受け、同僚たちと無心になって夢を追って過ごせたことを今一つ一つ心に想い泛べ、

大変うれしく思っています。「去年のこの日この門のうち。人面と桃花あい映じて紅なり。人面は知らずいづくにか去る。桃花旧によりて春風に笑う」という崔護の詩で結んでおきたいと思います。

停年退職を迎えて



歯科教授 堀 巨孝

医局の歯科部長として大阪歯科大学から赴任してきたのが、昭和57年の1月であり、本年の停年退職の日を迎えて足掛け20年にもなっていました。

私は歯科の中でも特に歯内療法学を中心として勉強してきた男で、はたして京都府立医大の方々に受け入れて頂けるか否か、不安を持ちながらの部長就任でしたが、ドッコイそれが当たったようで、就任以来、各教授の先生方を始め、その奥様方、ご家族、はたまた知事部局の方々等が率先して患者に成っていただき、加えて院内の先生方からの紹介患者もあふれ、良い思い出、嬉しい思い出でいっぱいです。価値ある大学生活を送らせて頂いたと感謝の念でいっぱいです。

本年は丁度歯科医局開設85周年の年を迎え、また新たな出発をしなければなりません。

最近の医学の進歩はめざましいものがありますが、歯科医学としてその他ではありません。今後の歯科医局の発展は、決して私の延長であってはならず、新しい歯科医学の体系を踏まえて、来たるべき新しい歯科医療への対応をしなければなりません。

さて、停年退職をしたとは申せ、まだ64歳、今日の社会環境からすればまだ青春期のようなもので、もう一奉公せねばなりません。プライベートな診療室も宇治市の自宅と、郷里の滋賀県日野町にありますし、そのどちらかで開業するのもよし、はたまた京都で行政的な仕事の声もあり、関係学校の教師の声ありといささか迷っております。私としては今までお世話になった多くの患者様を継続して診させて頂くのがベストなことと思っていますし、多くの患者様達からの強い希望でもあります。

ただ如何なる道に進もうとも、平成6年の教授就任の時に奈良薬師寺の前館長・高田弘胤和尚本人から頂いた直筆の書の一枚、「かたよらないところ、こだわらないところ、とらわれないところ、ひろくひろく、もっとひろく、それが空のころなり。為堀先生」なる教えと1900年代始めのドイツの詩人、Samuel UllmanのYOUTHの一節「年を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき、初めて老いる」なる詩を心して生きていきたいと念じております。皆様ありがとうございました。

京都府立医科大学附属病院歯科医局は大正5年6月に開設され、各地の医科大学・医学部の中で東京大学医学部に継ぐ、日本では2番目に古い歯科医局であります。医局の大先輩の中には本学で勉強され、各地の歯科大学の教授や学長になられた先生方を始め、京都府・滋賀県の歯科医師会々長も、代々その多くがこの医局の出身者で占められてきました。この様な名誉ある歯科

学内ニュース

基礎医学学舎実習棟完成

基礎医学学舎実習棟が完成し、平成13年1月12日に竣工式を行いました。

この実習棟は、今日の急激な高齢化の進展と疾病構造の変化や多様化・高度化する医学・医療に対応するため、医学教育・研究の中核施設として整備が進められてきた基礎医学学舎の最終工事として昭和56年策定の「京都府立医科大学整備基本計画」に基づき整備を進めてきたものであり、平成6年3月の基礎医学学舎第1期工事に始まり、平成11年3月には8階建ての本体部分が完成。さらに、平成13年1月に3階建ての実習棟が完成して全面竣工したところです。

実習棟の内部は、100人余りを収容できる実習室3室のほか小実習室やカンファレンス室を備えており、教材提示装置、テレビモニタや顕微鏡を用いて、人体組織の正常構造や疾病変化を観察するなど、第2～3学年生を対象とした基礎医学分野(解剖学・病理学・医動物学・生化学・微生物)の実習に活用する予定としています。

また、整備に当たっては、モニタ台数を大幅に増加することにより、従来よりさらに身近で実習対象を確認できるようにするなど、学生一人ひとりの力を引き出し、それを広げ、高めていくことができる施設となっており、竣工直後から既に学生による実習が開始されています。

府民共有の財産であるこの基礎医学学舎が、これからの医学の進歩に貢献する施設となり、日本や世界をリードする医学の発祥の場となるよう、また京都府立医科大学が府民の健康を守る中核機関にふさわしい施設となるよう、本学の責務もますます重要なものとなっています。



第2工区の各階平面図

<p>1階</p> <p>第2実習室 (解剖・医動物関係)</p> <p>準備室</p> <p>WC</p> <p>玄関ホール</p> <p>階段</p> <p>機械室</p> <p>基礎医学学舎(既設)</p>	<p>2階</p> <p>第3実習室 (病理関係)</p> <p>カンファレンス</p> <p>WC</p> <p>階段</p> <p>カンファレンス</p> <p>機器実習室</p> <p>標本室</p> <p>基礎医学学舎(既設)</p>	<p>3階</p> <p>第4実習室 (生化学・微生物関係)</p> <p>小実習室</p> <p>WC</p> <p>階段</p> <p>小実習室</p> <p>小実習室</p> <p>機械室</p> <p>基礎医学学舎(既設)</p>
--	---	---

基礎医学学舎の整備経過

区分	第1期	第2期第1工区	今回(第2期第2工区)	計
構造等	鉄骨鉄筋コンクリート地下2階地上8階		鉄骨鉄筋コンクリート地上3階	
延床面積	16,332㎡	7,779㎡	1,700㎡	25,811㎡
工期	H6.3~H8.6	H9.11~H11.3	H12.1~H13.3	
建設費	93億2,100万円	49億1,100万円	9億3,700万円	151億6,900万円

基礎医学学舎の各階別施設概要

階別	第1期・第2期第1工区	第2工区
8階	医動物学教室、衛生学教室、公衆衛生学教室、法医学教室	
7階	第一病理学教室、第二病理学教室、微生物学教室、薬理学教室	
6階	第一解剖学教室、第二解剖学教室、第一生理学教室、第二生理学教室、生化学教室	
5階	中央研究室	
4階	中央研究室(RI施設)	
3階	脳・血管系老化研究センター、標本室(解剖、医動物、法医)、実習室、中央研究室(コンピュータ室)	実習室等
2階	脳・血管系老化研究センター、標本室(病理)、演習室、中央研究室(実験動物施設)	実習室等
1階	脳・血管系老化研究センター、講義室、中央研究室(実験動物施設)	実習室等
地下1階	系統解剖実習室、解剖施設(系統、病理、法医)、中央研究室(NMR室、実験動物施設)	
地下2階	中央機械室	



学内ニュース

老化研10周年記念講演会

附属脳・血管系老化センターは、平成2年11月1日に開設されて以来、10周年を迎えたことから、平成13年3月17日(土)、京都市南区の京都テルサホールにおいて「もうひとつの先進医療」をメインテーマに設立10周年記念講演会が開催されました。

はじめに、本学の設置者である京都府を代表して、木村 功京都府副知事からご挨拶があり、老化研究センター所長である井端泰彦学長から、老化研究センター10年の成果について報告がなされました。

基調講演では、国際日本文化研究センター所長の河合隼雄先生から、「高齢者における全人的医療について」をテーマにご講演いただき、続いて、「いのちを考える」というテーマでシンポジウムが行われました。シンポジウムの司会は老化研究センター社会医学・人文科学部門の渡邊能行教授が、パネリストは老化研究センター病態病理学部門の伏木信次教授、老化研究センター神経内科学部門の中島健二教授、佛敎大学文学部の藤本浄彦教授、高齢者福祉総合施設パプテストホーム施設長(元日本パプテスト病院牧師)の岡部元英先生が務められました。

当日は、午前中から雨の降る悪天候ではありましたが、約600人の方が京都府内のみならず他府県からも会場に足を運んでくださり、大盛況のうちに記念講演会が終了いたしました。参加者からのアンケートによると、河合先生の基調講演については、「高齢者の立場や接し方についてのお話が大変分かり易かった」「今後の患者との接し方や心構えについて大いに参考になった」などの意見が多数ありました。

シンポジウムについては、「いのちや健康を守ることを考えるとき、医療的な部分だけでなく、心のケアも必要であることがよくわかった。」という声や、老化研究センターが宗教者である藤本先生、岡部先生とともに『死生観』について考え、研究していることに対して共感する声が多く寄せられました。



▶開会の様子



▶河合隼雄先生の基調講演



▶シンポジウムの様子

学内ニュース

卒業式・入学式

大学・大学院

医科大学の平成12年度卒業式が3月2日に挙行されました。学部卒業生が100名、大学院修了生が15名です。

学部卒業生中、学業成績が最も優秀であった学生に贈られる「京都府立医科大学学長賞」には、宮地充君がその栄誉を称えられました。

在校生代表の5回生、隅田靖之君の温かな送辞を受けた後、卒業生を代表して岡山哲也君が、在学中の思い出や卒業を迎える喜びと感謝の気持ちを答辞で読み上げました。

平成13年度の入学式は、医科大学が4月5日に、大学院が4月6日に挙行されました。入学者は、医科大学99名、大学院83名で、医師・医学博士を目指して勉学と研究に励むことになりました。

在学生代表の6回生、山本経尚君から、「根拠のない情報は鵜呑みにするな」「先輩方・同級生と積極的に触れ合う」「自分の目指す医師像を作り上げる」という充実した大学生活を送るための3つのアドバイスなど、心のこもった歓迎の挨拶がありました。

医療技術短期大学部

医療技術短期大学部の平成12年度の卒業式は、3月9日に挙行されました。看護学科においては6期目の卒業生94名が卒業し、専攻科では5期目の卒業生64名（保健学専攻49名、助産学専攻15名）が卒業しました。

医療技術短期大学部の平成13年度の入学式は、4月4日に挙行されました。入学者は、163名（看護学科99名、専攻科保健学専攻49名、専攻科助産学専攻15名）で、看護婦等を目指して勉学に励むことになりました。



平成13年度 京都府立医科大学医学部 入学式 H13.4.5



同上 学長式辞



平成12年度 京都府立医科大学医療技術短期大学部 卒業式 H13.3.9

学内ニュース

平成13年度 医科大学当初予算の概要

平成13年度当初予算が府議会2月定例会で決成立しました。景気回復の遅れで府税収入が低迷し、京都府の財政は依然厳しい状況にあり、昨年度初めて1兆円の大台を突破した府債残高は、今年度末には1兆900億円台に達する見込みであるなどの危機的な状況に陥っています。

本学としては、こうした極めて厳しい財政状況の下、歳出予算が厳しく抑制される中、教育・研究・診療を通じて府民の福祉向上に寄与すべく、医科大学の予算の確保

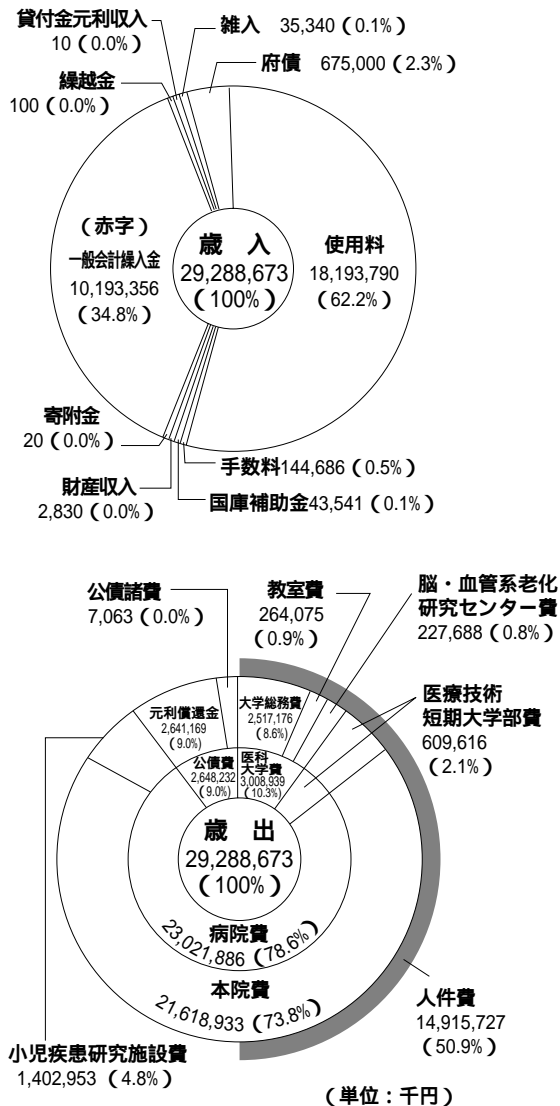
に努めましたところ、大学部門においては医療技術短期大学の4年制化のための看護学科(仮称)設置準備費や学内ネットワーク管理のための高度情報化推進事業費が、病院部門では引き続き大型診療機器(血管造影撮影装置等)や総合電算システムの整備費などが認められました。

しかしながら、これら医科大学の運営経費は100億円を超える一般会計からの繰入金(赤字)に支えられており、引き続き大学及び附属病院の経営改善の推進が強く求

められています。

今後とも、附属病院の経営改善を中心として、教職員一同が節電・節水などはもちろんのこと、日常の業務点検を徹底することにより無駄を省き、より一層効率的な運営を心がけていくとともに、府民の健康を守る地域医療の中核施設としてその役割を果たし、府民の期待と信頼に応えていかなければなりません。

平成13年度京都府立医科大学および附属病院特別会計当初予算の状況



主な事業内容

教育・研究の充実

- 看護学科(仮称)設置準備費 8,200万円
保健医療環境の変化に対応できる質の高い看護職員の育成に資するため、医療技術短期大学部を医学部の4年制の看護学科(仮称)に改組し、教育・研究体制を整備します。(平成14年4月設置)
- 学外臨床実習経費 200万円
臨床実習教育の充実を目的として、大学外の医療機関等において学生の臨床実習を行い、地域の中で役立つ医療人を養成します。
- 高度情報化推進事業費 411万円
学内ネットワークの保守・管理運営に要する経費を確保し、ネットワークの円滑な運用を図ります。(13 新規)

開かれた大学づくり

- 公開講座開催費 120万円
本学の医学的研究を府民に還元するため、公開講座を実施します。
- 国際交流事業費 237万円
中国医学研究生を受け入れます。(1名)
エディンバラ市クィーンマーガレット大学から教員を受け入れます。(1名)

患者サービスの向上

- 診療機器整備費 2億9,800万円
地域医療機関として必要な機器を整備することにより、受診しやすい診療体制の整備を促進し、受診患者の増加を図ります。(12 3億4,800万円)
- 大型診療機器整備費(人工心肺装置、血管造影撮影装置、患者モニタリングシステム) 特定機能病院にふさわしい高度医療の提供を確保するため、老朽化した大型診療機器を計画的に更新します。新機種への更新により検査精度が向上するなど、患者サービス、診療内容の改善につながります。(12 3億円 MRI)
- 総合電算システム整備費 1億5,300万円
本学附属病院において、オーダーリングシステムを核とする総合電算システムを整備し、待ち時間の解消等、患者サービスの向上や、他科の検査結果等、診療データの共有化を図り、併せて調剤支援システムを導入します。(12 2億円 平成14年4月全面稼働予定)
- 附属病院外来患者等環境整備費
外来診療棟1階の玄関待合ホールの拡充、収納窓口のオープンカウンター化等を行い、患者サービスの向上と業務の効率化を図ります。

特集

新人ナースのみなさんへ

「自分に磨きをかけましょう」



C5号病棟婦長 中村 順子

ご就職おめでとうございます。社会人としての第一歩を元気に踏み出されたみなさんに心よりお祝い申し上げます。

白衣を着たら一年生でもナースはナース。患者さんと関わっていく中で、学生の時のような甘えは許されません。プロとしての自覚をしっかりと持っていただきたいと思います。自分の行動の裏づけとなる知識をたくさん蓄えること、技術を上達させるこ

と、先輩の要領の良さ・手際の良さを学ぶことはもちろんのこと、自分を鍛えることも忘れないでください。本をたくさん読み（ジャンルは問わず、乱読もよし）いろいろな人としゃべり（好きな人とも嫌いな人とも）、考え、悩み、体を動かし、恋愛もしてどんどん自分に磨きをかけましょう。いつもアサーティブでいてください。いつも自分を好きでいてください。

「厳しさは愛情と責任から」



D6号病棟婦長 竹村 純子

難関を乗り越えて、本学で社会人としてスタートされた皆様おめでとうございます。現場に出られた今、喜びより不安の方が強い時ではないでしょうか。

先輩たちの指導が、厳しいと思うかもしれませんが、泣くことだって何度もあるでしょう。でも、厳しい言葉は、後輩に対する愛情と患者への責任なのです。ちょっとしたミスが、患者へ取り返しのつかない損失を与えます。だから、いいかげんには出来ないのです。また、わが子は、簡単に叱れ

ますが、他人を叱るのはとてもエネルギーがいるのです。早く一人前のプライドあるナースに育てたいからなのです。そして、こんなにかまってもらえるのは、ほんの、1～2年のことなのです。

医療は日進月歩、常に新しい知識の吸収も必要です。病んだ人と対応するには広い度量もいります。自分自身が人間として磨かれなければいけないでしょう。

さあ、ドアは開けておいてください。

「素直な気持ちと情熱を!!」



D7号病棟婦長 立川 加奈子

“周りの人にたくさん助けられました” 昨年の新人の感想です。毎年4月になると“今年はどんな子達が入ってくるのだろう”迎える側も新人同様期待と不安でいっぱいです。

詰所の一員として迎える以上は、途中でリタイヤして欲しくない。“看護”という仕事を選んだ事に喜びを見い出せる糸口を早くつかんでほしいと思います。

私達は先輩看護婦として持っている知識や技術を伝えようと早くから計画しています。学生の時、恐いとか苦手とか思っ

いたスタッフが、実はやさしかったり、親切だったりイメージも変わってくるでしょう。

あなた達は、ただ何でも吸収しようという素直な気持ちとどんな事にも挑戦しようという情熱を持って飛び込んで来て下さい。忍耐強く対応する受け皿はできています。

今日時間内に仕事を終った2年目に声をかけると“落ち着いてましたから”と自信に満ちた笑顔が返ってきました。

「ひとつひとつを確実に!!」



B8号病棟婦長 若林 真理子

みなさん、ご就職おめでとうございます。期待と不安がいっぱいで、毎日がとても短く感じられているのではないのでしょうか。早く一人前の看護婦にならなければ、と焦ってはいませんか。今は、知識や技術をひとつひとつ確実に自分のものにして、足元を踏み固めていく努力をしてください。いつも疑問を持って、物事に対しどうすればいいのか、行なったことに対し、あれでよかったのかと考えてください。そうした毎

日の積み重ねの努力が一番大切なのです。

成長するのもしないのも自分次第です。誰に教えてもらっても、やるのは自分です。向上心を持って意欲を持って、自分を高めていきましょう。壁にぶち当たった時は一人で悩まず、同期生や先輩に相談すればきっと道が開けるはずですよ。まずは1年間、自分の目標に向かって頑張って歩いて行きましょう。

平成13年 6月号

編集・発行

京都府立医科大学

(庶務課庶務係 電話075-251-5210)

